

【長野県小諸市】

背景・課題

- ・商業施設等の郊外化が進んだこと等により、中心市街地の魅力や賑わいが低下
- ・市役所や図書館などの老朽化した公的不動産の建替の必要性
- ・民間総合病院が郊外移転を検討

市役所や病院の集約再編を契機として、面的なエネルギー有効利用の仕組みを実現

- ・中心拠点に市役所・病院・図書館等の賑わいの核となる施設を集約再編するとともに、市民のアクセス及び回遊性の向上のために周辺の施設整備を推進。
- ・これに併せて、市庁舎等（市役所・図書館・市民交流センター）と病院で、建物間の熱融通による省エネと電力の一括受電による最大需要電力（ピーク）の平準化による電気料金の削減を実現

市役所、病院等の集約

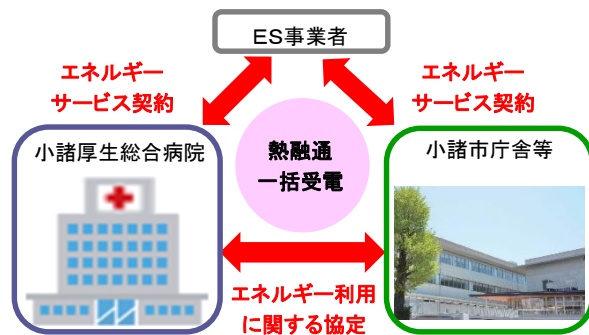
病院、図書館、市民交流センターを市役所近くに集約し、併せて周辺の歩行空間を整備することにより市民の利便性を向上



小諸市役所周辺地区

面的エネルギーの利活用

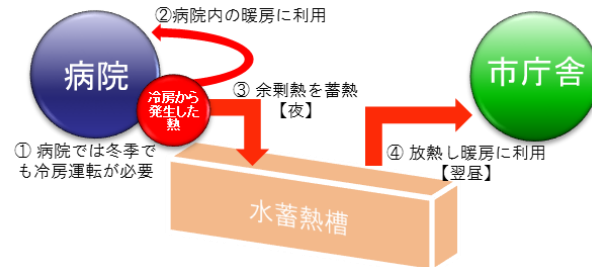
市庁舎等と病院で、建物間の熱融通や電力の一括受電により、環境負荷を低減



- ・ES事業者とは、ES事業者がエネルギー設備の資金調達から補助金事務、設計・施工、維持管理までトータルサポートし、エネルギーサービスを提供する事業
- ・市と病院の共同で選考委員会を設置し、プロポーザル方式によりES事業者を選定

市庁舎の地下に水蓄熱槽(355m³)を設置し、余剰熱を有効活用

冬季における熱融通の例



効果 ○ 電力の一括受電や熱融通等により、光熱水費を年間 **約37% (約 0.2億円)** 削減^{※1}

○ **CO₂排出量**を1年当たり**約533 t**削減^{※1} (自家用自動車約230台から1年間に排出されるCO₂に相当)

※1 一定の仮定条件のもとで小諸市試算 (効果は市分のみ)